

# 平成 28 年第 14 回沖縄県教育委員会会議（定例会）議事録

## 1 開会及び閉会に関する事項

平成 28 年 10 月 20 日 午後 3 時 00 分開会

午後 4 時 27 分閉会

## 2 出席者及び欠席委員の氏名

### (1) 出席者

教育長 平敷 昭人      委 員 喜友名 朝春      委 員 新崎 速  
委 員 照屋 尚子      委 員 玉城 きみ子      委 員 泉川 良範

### (2) 欠席委員

なし

## 3 説明のため会議に出席した職員の職氏名

教育管理統括監	宜野座 葵	参 事	新垣 悦男
総務課長	親泊 信一郎	教育支援課学校予算班長	金城 奈穂子
施設課長	識名 敦	学校人事課長	新垣 健一
県立学校教育課長	半嶺 満	義務教育課長	石川 聡
保健体育課長	平良 朝治	生涯学習振興課長	佐次田 薫
文化財課長	萩尾 俊章		

## 4 議事関係

### (1) 開会

平敷教育長が開会を宣告した。

### (2) 議事日程の決定

議事日程は、会議資料記載の日程案のとおりとすることが決定された。

### (3) 平成 28 年第 13 回議事録の承認

全出席委員異議なく、平成 28 年第 13 回議事録を承認した。

### (4) 議事録署名人の指名

平敷教育長が、新崎委員を議事録署名人に指名した。

(5) 報告事項

報告事項1・平成28年第4回沖縄県議会（9月定例会）における質問・答弁等概要報告

【説明（総務課長）】

資料に基づき、平成28年第4回沖縄県議会（9月定例会）における質問・答弁等概要について報告を行った。

【質疑等】

特になし

報告事項2・平成29年度管理職候補者選考試験の最終合格者の報告

【説明（学校人事課長）】

資料に基づき、平成29年度管理職候補者選考試験の最終合格者について報告を行った。

【質疑等】

- 照屋委員 小中校長、小学校教頭、特支校長の女性の合格者が昨年度より増加しているということは嬉しいことです。女性の活躍の場が増えますし、また女性教職員の励みにもなると思います。合格者の年齢幅で、最年少は41歳ですが、若い頃から高い志をもって管理職試験に取り組むということは素晴らしいことだと思います。学校改革や新しい取組みをするには、ある程度の期間を要すると思いますが、そういう意味では、若い管理職が学校の課題と向き合って、様々な取組みにチャレンジしてほしいと期待しております。
- 学校人事課長 女性の受験者は、数は少ないが合格率は高いという現状がございます。これまでも女性の受験者を増やすといった課題がございましたが、引き続きそういった課題への取組みを行って参りたいと思います。それから、受検の年齢につきましては、教頭は40歳から受験できることになっておりますので、引き続き受験者を増やすということで色々な呼びかけを行っていきたいと思います。
- 玉城委員 小中の女性の管理職の合格率が50%を越えたということは、小学校の教諭は女性の比率が高いので、今後、後輩達の励みになるのではないかと考えております。一方で、全体的な受験者数を見ると、今回は43人減少しております。女性の受験者数も男性の受験者数の約6分の1程度となっております。今年度の受験者数の減少の背景は、どういったことが考えられるのでしょうか。
- 学校人事課長 正直に申し上げますと、なぜ減ったかという説明は非常に難しいものがあります。受験者数を平均的にここ数年見てみますと、一定の推移があり、でこぼこがあるという感じですので、例えば28年度は小中高併せて600人を超えているわけですが、ここ何年かも、受験者数は600人台でございます。ただ、550人ぐらいの年もありまして、年によって50人程度増減している状況でございます。ずっと右肩下がりというわけではございません。その時の状況により受験者申し込み数も増減し

ますので、具体的に今年度 50 人受験者数が減少しました具体的な理由は把握しておりません。

- 玉城委員 それは、ここ数年の増減の範囲内ということですね。
- 学校人事課長 はい。
- 喜友名委員 新任管理者として、離島などに行かれる場合もあると思いますが、校長、教頭の新任管理者全体に向けて、どのような研修をなされていますか。また、女性の管理職には数が少ないのでモデルにする方も少ないと思うのですが、女性管理職に向けて特別に研修等を行っていますか。
- 学校人事課長 校長、教頭に向けた研修は、義務教育課や県立学校教育課などの指導系の課を中心に実施をしているところです。女性の管理職だけに向けてのものではなく全体の中での位置づけとなっております。ちなみに、女性の管理職で言いますと、本県の女性職員の活躍の推進に関する特定事業主行動計画というものがございまして、女性管理職の目標を、教育委員会では 15%においております。本県 28 年度は 18.1%ございました。小・中・高・特支によって少し変動はございますが、平均は 18.1% ございます。他県に比べると、学校現場の女性管理職の割合が高いというふうに考えております。ただ、玉城委員が仰ったように、とりわけ義務教育の分野では女性職員の割合が多くなっております。今後も女性職員が管理職を目指すような形での呼びかけ等を取り組んでいく必要があると思います。喜友名委員が質問された、女性管理職に特化した研修は今のところ実施をしていないという状況です。
- 新崎委員 義務教育の学校と県立学校の合格者数に違いが出ています。昨年度の状況を見てみますと、昨年度は合格率が高まってきたのかなと思いましたが、今年度県立がまた極端に下がっています。この傾向はどのようになっているのでしょうか。
- 学校人事課長 どうしても、小中に比べると、特別支援校高校と、県立高校の場合は、全体の校長、教頭の数が違うので、どうしても小中と比べて合格率が低い状況にあります。ここ数年の傾向は、小中でいうと 150～170 ぐらいの台で、退職者の数によって合格者の数が違いますので、例えば小中併せて校長、教頭併せて 25 年度が 175 だったのが、161 になって、155 になって、144 になったり、退職者の数によって少し変動がある状況です。高校でいうと、30～50 半ばぐらいまでをここ 3 年くらい推移している状況です。退職者の数により、合格者の数が決まってくる、それに見合う受験者がいるかによって、合格率がだいぶ動いてくるというのが実情です。
- 教育長 年度毎に一定の退職者がいるわけではないということですね。
- 学校人事課長 どうしても定年退職の多い年など、受験者が昨年並みだったとしても、

合格率は高くなります。ほぼ退職者の数に沿って合格者を出すというところがあります。

- 教育長 ポストが増えるわけではないのですね。
- 学校人事課長 はい。小中学校は、統廃合に伴い、ポストは逆に減っている状況です。
- 新崎委員 教師の職務や生き方に対する考え方が多様化してきていると考えていますが、そういったこととの関わりはいかがですか。
- 学校人事課長 確かにあるかもしれません。例えば、他県では、教員採用試験で応募する際に、将来的なキャリアを示すような示し方、例えば教員として採用されたら、ずっと現場にいて教諭として一生を終えるような仕事の進め方とか、学校現場で管理職として途中で管理職試験を受けたり、あるいは、教育行政に入り指導主事になり、また現場に戻り管理職になる、あるいは教育行政の中で行政の課長級になるというようなキャリアプランを示しているところも実際にございます。そういったことを事前に示すことで、教員側へのアプローチになるような取り組みを今後検討して行く必要があるのではないかと思います。
- 玉城委員 教師のライフプランを教員養成課程という早い段階から、自分の目指すべきところを何年後には何をするというのを大学、初任者連携して行うことに力を入れていくことが今後必要になっていくと思いますが、いかがでしょうか。
- 学校人事課長 教員養成課程を持つ大学側と意見交換をする機会がございますので、例えば、大学側での教員養成課程の中で、どのようなカリキュラムが組めるか、そのようなところを含めて話し合っていく必要があるのかなと思います。

### 報告事項 3 ・ 平成 29 年度沖縄県立特別支援学校幼稚部及び沖縄県立高等特別支援学校入学定員

#### 【説明（県立学校教育課）】

資料に基づき、平成 29 年度沖縄県立特別支援学校幼稚部及び沖縄県立高等特別支援学校入学定員について報告を行った。

#### 【質疑等】

- 照屋委員 幼稚部に関してですが、島尻特別支援学校自体の在籍数が年々増加していると思いますが、島尻特別支援の幼稚部は 1 クラスで推移しているということは、志願前相談や、教育相談を経て地域の保育園・幼稚園・発達支援事業所に、繋いだり、地域の受け皿が充実してきたという結果だと思っておりますので、インクルーシブ保育、インクルーシブ教育の推進に繋がるので、大変評価したいと思います。また、特別支援

学校の特別支援コーディネーターの先生方も頑張っているのだなと評価したいと思います。また、高等特別支援学校については3分教室が次年度から併設校になるということで、陽明高等支援学校と南風原高等支援学校が1学級10名増ということで、毎年高等支援学校の志願倍率が高いという状況にありまして、ニーズは十分にあると思います。それで、居住地から近い地域の併設校に通える生徒が増えるということは大変良いことだと思います。

○ 泉川委員 私も同じ意見で、県の努力の成果を評価するところであります。特別支援教育の中でも、様々なニーズに答えていくためには、いろいろな体制が必要だと思います。それで、幼稚部については先程お話しにあったように、特別支援学校の地域における特別支援教育のセンター的機能を果たすという役割からして、幼稚園・小学校に対して、特別支援学校からの支援というものを具体的に進めていけたら、内実のあるインクルーシブ教育に繋がるのではないかと期待しております。高等特別支援学校の定員が除々に増えてきているという現状で、当初の45人から105人という形で倍以上に増えてきている実績は非常に評価しているところです。最近、職業に直接繋がる科を設置し、専門性を高め就労に向けた支援を進めていく方向性も非常に評価しております。また、中南部でそういったニーズが高いということで、併設校もしっかり充実してきたと思います。併せて、北部地区・宮古・八重山などの離島・へき地でも、こういった併設校を活用した身近な地域で、軽度の知的障害の方のニーズに答えていければと期待をしております。

○ 教育長 北部や宮古、八重山の件に関しては、県議会の委員会でも同様の質問がございました。生徒の動向とか、地域の状況も見ながら今後検討していきたいと回答しています。

報告事項4・教育委員会の事務に係る教育長の臨時代理（県議会議案「沖縄県幼保連携型認定こども園以外の認定こども園の認定の要件に関する条例の一部を改正する条例」に対する意見）

【説明（義務教育課長）】

資料に基づき、教育委員会の事務に係る教育長の臨時代理（県議会議案「沖縄県幼保連携型認定こども園以外の認定こども園の認定の要件に関する条例の一部を改正する条例」に対する意見）について報告を行った。

【質疑等】

特になし

## 報告事項5・平成28年度全国学力・学習状況調査の結果報告

### 【説明（義務教育課長）】

資料に基づき、平成28年度全国学力・学習状況調査の結果報告について報告を行った。

### 【質疑等】

- 玉城委員 私は長年小学校に勤務しておりましたので、今回このように3年連続小学校がめざましい結果で、こう伸びをみせていることは本当に嬉しくて、また、県民全体の大きな喜びにも繋がっていると思います。このことは、学校現場での日々の授業改善が継続されているのではないかとということと、もう一つは、子ども達の基礎学力の定着と同時に思考力、判断力、表現力の育成に向けた取組みが、どの学校でも行われるようになり、それがこの結果に結びついたのでないかと考えております。中学校の方も、無回答が全国比でプラスマイナスゼロということで、また期待ができるなと思います。特に行政の皆様が、各学校に訪問をなさって、きめ細やかな指導が周知徹底していたのかなど、そういったことが功を奏したのかなどと思います。関係者の皆様に大変敬意を表したいと思います。そこで、次年度に向けて、次期学習指導要領で主体的・対話的な深い学びというのがキーワードになってくる訳ですが、それに向けての教材研究の仕方とか、授業作りの方法等の研修などをしなければならないと思いますが、そのような計画はどのようになっているのでしょうか。
- 義務教育課長 各教育事務所を通して、各市町村教育委員会と連携しながら、学校と共に進めています。実は義務教育課の方でも支援訪問ということで、年間300校程回っているところです。その中で、玉城委員が仰ったように、子ども達が思考する場面での今で言うアクティブラーニング的な指導方法を導入することを助言しております。そこらへんも含めて今後また取り組んでいけたらと思います。その辺りはこれまでの言語活動の充実等も含めて頑張っていけたらなと思うところです。
- 新崎委員 本県の子ども達の学力が、特に小学校の学力がしっかりとした指導の下で、着実に定着してきているということを感じます。成績の善し悪しに過剰に反応する必要はないと思いますが、県レベルでの指導の確かさ、あるいは子どもの頑張りを確認できるだけに、常に調査については注視をしております。小学校の場合は、説明があったように3年連続向上し大きく伸びを見せているということですので、子ども達の頑張り、そして教師の指導の充実が窺えるのではないかと思います。中学校においても、年々他県との差が縮まってきているので、中学校においても教育活動の特性を考慮しながら粘り強く指導していけば、小学校と同様に高まっていくものと期待しております。それから、学校や教職員には、これまでの調査や県独自で実施している達成度テスト等も詳細な分析をし、子ども達の苦手な部分あるいは躓きを把握して、子ども達に分かる教え方をさらに工夫をしていただきたいと思います。全国学力・学習状況調査の問題というのは、子ども達の様々な能力を確認する良問だと聞いております。各単元の指導の定着状況を確認するために有効だと考えます。是非、1年を通した指導の計画の中に、きちんと組み入れて、学力向上に努めていただきたいと思います。

ます。

- 喜友名委員 平均正答率が小学校で初めて全科目全国平均を超えるということで、中学校においても全国平均との差が縮小しているということで、学校現場を中心とした教育関係者の皆様に敬意を表したいと思います。また反面、学力偏重になっていないか、働く環境との関連で教育課題が県民からも指摘されているところですが、子どもの教育と働く環境の整備は車の両輪だというに思っております。現在でも「チーム学校」の構築ということで、地域を取り込んだ形で働く環境の整備にも取り組んでいるところですが、やはり教員が授業等に集中しづらいという状況もあるのか、最近教員の勤務時間の管理が新聞にも取り上げられているんですけれども、教員が授業に集中できるような職場環境の構築が、子ども達の学力向上に繋がるのかと思います。教育委員会としても積極的に取り組んでいく必要があると思いますので、よろしくお願いいたします。
- 義務教育課長 我々は子どもを育てる力をつけていくということが仕事ですので、その辺りはやはり改善しながら、子ども達のためになる仕事をやっていこうと思います。
- 教育長 学力・学習状況調査に関しましては、少数まで出して順位を並べるというのがどうなのかということがありまして、今回から整数で公表する形となりました。全国平均は出しておりますが、順位は出さないということになっております。色々な会合の場で、校長先生等にお話しているのは、テストの成績に一喜一憂しないでおきましょうということです。テストは学力の一部を図っているものであるし、お互いは子ども達の学力、要は、将来子ども達の夢を実現する力をつけるための取組み、そのために授業のやり方を改善するといったことを行っています。義務教育課の学力向上推進室で、学校訪問をして、色々な支援を行っています。授業のやり方を改善していくということで、力をつけるということを目的としています。そこを間違えない、テスト一辺倒になってはいけないということが大事なかなと思います。私も授業を見てみると、昔の授業のように一方通行ではない、要するに現在言われるアクティブラーニング、それにイメージとしては近く、子ども達が授業に参加して、グループを組み、様々な議論をしていました。一部分しか見ておりませんが、そのような授業形態が少しずつ広がっているのかなと感じました。授業の積極的な学びが広がっていけば、生きる力に繋がっていくと思います。議会でも教員の多忙化の話があり、様々な意見がございましたが、その辺は様々な意見を参考に校務改善にも取りくんでおりますが、引き続き全体もよく見ながら、しっかり改善していけるように頑張っていきたいと思っております。

## 報告事項6・平成28年度第1回沖縄県学力向上推進本部会議開催結果

### 【説明（義務教育課長）】

資料に基づき、平成28年度第1回沖縄県学力向上推進本部会議開催結果について報告を行った。

### 【質疑等】

- 照屋委員 新たに加えられた「集団づくりの充実」というところですね、私たち委員は先日中学校の視察に行ってお参りしましたが、その視察した中学校では、生徒会活動が非常に充実しておりました。他に、特別支援教育が、知的、情緒、通級、また普通学級にしながら支援員が対応しているといった特別支援教育が充実しておりました。それから、カウンセリングルーム等も、環境整備が非常に良くなされておりました。生徒指導上の取り組みでは、「集団づくりの充実」に繋がるとは思います。9割の生徒が8時までに登校しており、挨拶運動や清掃活動をしているということです。様々な活動を通して、遊び・非行の不登校が0と仰っていました。それから、自立支援員、学習支援員、スクールカウンセラー、小中アシスト相談員、スクールソーシャルワーカー、支援コーディネーター、心の相談員等の派遣職員と連携した指導・支援が図られているということで、非常に落ち着いた雰囲気の中で授業が展開されていました。教室や廊下の掲示物も非常に整備されておまして、先生方の教育的愛情が感じられる暖かい雰囲気が作り出されている学校だなと感じました。先生方の校内研修においても、中学校ですから学年や教科を越えた研修を行っているということで、まさに校長先生がリーダーシップを発揮し、チーム学校が形成されているという印象を受けました。学力も必然的に向上しているということでした。中学校の視察を通して感じたのは、特別支援教育と生徒指導と学力向上はリンクしており、切り離せないものと感じました。その学校が行っていることは好事例だと思いますので、困っている県内の中学校へできるだけ広めれば課題の解決に繋がるのではないかなと期待しているところです。1人も見捨てないという教育を推進していただき、学力の底上げに繋げていただきたいと思いますと考えております。
  
- 玉城委員 「集団づくりの充実」は「わかる授業」の構築と両輪をなすものだと考えております。特に「集団づくり」において、子ども自身が主体性を発揮して気持ちを揃えていく、そして教師が気持ちを揃えていく、学校においてお互いの気持ちが揃った時に上手く歯車が回るのだなということを感じました。自治活動と仰っていましたけれども、子どもの主体性を培うとともに生徒指導においてお互いに当たり前のことができる、そして、きちんと気持ちを揃えて前へ進むといった基本的なことができる生徒指導のみならず、学力向上においても上手く繋がるし、よく言われる「豊かな学び」の形成に繋がるのではないかと思ひ、大変期待をしております。

(6) 議案審議

議案第1号・県立那覇A特別支援学校（仮称）の学校設置基本方針について

【説明（総務課長）】

資料に基づき、県立那覇A特別支援学校（仮称）の学校設置基本方針についての説明を行った。

【質疑等】

- 照屋委員 基本方針案については、異議はありません。設置教育部門の病弱教育部門についてですが、様々な病状の児童生徒が入学されると思いますので、設計に入る前の段階で病弱教育部門について精査をしなければならないと思います。しっかりと庁内で議論を尽くして検討して欲しいと思います。
- 総務課長 今後、具体的な設計に向けて、今の話も含めて庁内で検討して、また、保護者の方々などから意見をお伺いして検討していきたいと思います。
- 喜友名委員 12ページの写真を見て思ったことです。前回視察した時に、津波などの災害に対する説明も聞いたのですが、満潮であるのか、この写真を見ていると川の方が少し心配になります。津波の場合は、川が狭まってくると、水かさが上がってくるのではと気になる部分でございます。その辺りは、地域、あるいは那覇市がこれまで十分検討していると思いますので、那覇市行政との連携等をしながら、安全確保については地域の考え方もあると思いますので、しっかり対応していただきたいと思います。
- 総務課長 県が想定しております津波の想定区域は、最大の地震の場合は、この地域は運動場の一部が浸水すると想定されています。仰いますように、予測不可能な場合もございますし、そういった意味で、建物について高層化をするということも考えております。また、地域の防災関係とも、もう一度確認しながら、設計などについても、検討していきたいと思います。
- 玉城委員 地域連携ということで、敷地のすぐそばに協同病院がございます。今回の基本方針案では肢体不自由教育部門、病弱教育部門とあるわけですが、共同病院との連携というのは考えているのでしょうか。必要な教職員を配置するということですが、そこにはお医者さんや看護師なども入ってくるのでしょうか。
- 総務課長 具体的な連携の形というのはまだ想定できておりませんが、色々なことを想定して、そういった事も含めて考えていきたいと思います。協同病院さんの方からもそのような連携ができればという話もありますので、今後検討していきたいと思います。
- 泉川委員 目的の1行目に、「知的障害児童生徒増加に伴う」という文言がございますが、これは那覇南部地区の特別支援学校に就学を希望する知的障害児童生徒の増加のこ

とだと理解しております。しかし、資料を読んでみて「知的障害児童生徒が増えている」と読めてしまいました。近年、知的障害の人が増えているのかということ、そのようなことはありません。「知的障害児童生徒の増加に伴う」というところで、文章を切ってしまうと、「知的障害児が増えている。」と読めてしまったので、この文言でいいのかどうか。

- 総務課長 「那覇南部地域における知的児童生徒の増加に伴う」を文頭にするというところでしょうか。
- 泉川委員 「希望する生徒が増えている」ということが、この文章の意味するところだと思います。要するに、特別支援学校が充実し、周知され、段々と入学を希望される人が増えてきたというのが過密化の本質だと思います。地域の人口が増えたとか、それだけではないと思います。設置方針案の文章では「知的障害児童が増加している」と読め、知的障害児童生徒は増えていないのにと感じてしまいました。順番を変えれば誤解はないと思います。
- 教育長 只今の件は今の御意見を踏まえて整理させていただくということによろしいですか。
- 総務課長 いえ、今御決定いただいた方が良いのかと思います。「那覇南部地域における知的障害児童生徒増加に伴う那覇南部地区特別支援学校過密化の解消」によろしいですか。「那覇南部」が繰り返しになりますが、こちらの表現が正確かと思います。
- 玉城委員 過密化というのが印象的に残る感じですよ。学校の過密化の解消ですよ。
- 泉川委員 過密化の原因ということで、これは分かりますが、そのものが増えているということが読めてしまったので、ということです。
- 総務課長 「那覇南部地区特別支援学校」と記載しておりますのは、島尻特別支援学校、大平特別支援学校のことを指しております。この文言を削除しますと、全体の特別支援学校の過密化解消という表現になってしまいます。最初に、「那覇南部地域における」という文言を追加することによろしいでしょうか。
- 教育長 通学区域の関係で、どこの特別支援学校を指しているということは、推測できないですか。
- 玉城委員 「知的障害児童生徒増加に伴う」という冒頭の文言を削除すると良いのではないのでしょうか。前を取ってしまえば、下の方の文言でわかるので。

○ 泉川委員 それでいいですね。

○ 総務課長 それでは、「知的障害児童生徒増加に伴う」という冒頭の文言を削除ということをお願いいたします。

**【採決の結果】**

全会一致により、修正案が可決された。

**(7) その他**

特になし

**(8) 閉会**

平敷教育長が閉会を宣言した。